IMAJ ニューズ
NO. 3
国際MRA日本協会機関誌
発行年月日　昭和50年9月25日（毎月1回）
発行所　国際MRA日本協会
発行者　柳沢錬造
（非売品）
INTERNATIONAL MRA ASSOCIATION OF JAPAN

MRA世界大会帰朝報告会特輯号

スイスのコーの遠景

第一回理事会ひらく
理事四名増員を決める

九月十二日午後四時より、日本工業クラブにおいて、協会創立後、最初の理事会を開催した。

福岡の井原伸允常任理事、高松の横田昭理事、神戸の住友義輝理事、大阪の平沢光人理事など二十名が出席して開かれ、杉田一次副会長が議長席について開会した。

経過報告、会計報告のあと、今後の具体的活動計画について検討をし、結論として、企画委員会を設けて討議し、成案を得たなら常任理事会にて審議し、決定したら直ちに活動を開始することにした。

役員の増員については、理事長より次の四名を増員したい提案があり、全員一致で承認された。

常任理事　木村行蔵氏（日本善行会理事長）
〃　西川四郎氏（全日本私塾協会会長）
〃　山内俊平氏（大阪工業大学教授）
理事　鈴木富治氏（大阪青少年協会事務局長）

MRA世界大会
帰朝報告会ひらく

本年夏、スイスのコーにおいて開かれているMRA世界大会に、日本より参加した人々は、鶴田重蔵、清子夫妻、住友義輝美子夫妻、河本康太郎、大村治、藤田幸久、中島竹司、金森奈津子、榊たか子さんらの多数であり、この内、藤田、中島、金森さんらは、既に「アジアの歌声」の勢力として活躍している藤森英和、平沢恵子、兼松恵さんらと一緒になって活動する決意でスイスに残り、他の七名の方々は、それぞれ帰国したので、九月十二日夜、東京、日本工業クラブの大ホールにおいて帰朝報告会を開いた。

開会のことば

柳沢理事長

「想えば、昭和十三年五月、ロンドンのイーストハム公会堂において、フランク・ブックマン博士が『現在の危機は、根本的には道義上の危機だ、国々は道義的に再武装しなければならない。神のみが人間の性質を変へる力をもっている、人が聴けば神は語り、人が従えば神は働らく、人が変れば国は変る、この力が少数の人の中で働らくとき、国家の問題も解決される』と演説して、MRAは発足した。あれから三十七年になるが、今日の情勢は危機であり、このブックマン博士のことばがピタリとあてはまる、この報告会を意義あるものにしたい」と、挨拶し、まず映画「MRA二十五年の歩み」を相馬雪香さんの解説によって上映し、ブックマン博士の声も聴いた。

会長（代理）挨拶

千葉　副会長

「国際MRA日本協会が誕生し、皆さんのご協力によって活発に活動していることに感謝する。

MRAのタボラ将軍が亡くなったので、ブラジルを訪ねた、ブラジルは昭和五年に行ったことがあり、四十五年ぶりの訪問である、ブラジル政府から最高の勲章をいただいた。

帰へりにロスアンゼルスで、ジョージ・イーストマンさんのお墓参りをしようとしたが、日本大使館でも解らない、あれだけ日本のためにつくしてくれた方のお墓も解らないでは情ない、イーストマンさんの弟さんを探して、やっとお墓参りをした。

マーチン氏の話によると、いま世界で頼りになるのは、西ドイツと日本だけだ、といっていた。

感謝のことば

加藤副会長

私が国会に出たのは大正十四年であり、政治生活五十年になる、今回で国会議員を辞める、若い人に譲ってお手伝をする、MRAは、これからも皆さんと共に闘っていく」と、挨拶があった。

続いて、柳沢理事長司会の下に、七名の帰朝報告をきき、その後、韓国の元国会議員でMRAの活動に専念している、鄭瘖先生のお話をきき、これに対し、加藤副会長よりお礼の挨拶があった。

「鄭瘖先生のお話に、大変感銘を与えられた。日本人は韓国を三十六年も支配して勝手なことをしていた。初めてマキノで韓国人と会ったとき、日本人が握手をしようとしても、手をひっこめてしまい握手もしなかった。心の底から怒っていた。

しかし、韓国の人達の話を聞いていて日本人の行為が解ったときには、穴があったら入りたい程の気持がした。早速静かな時間をもち、私は心の底から詫びた、そこから和解が生れたのであるが、あの感激は今でも忘れることはできない。

日本も、国際MRA日本協会が誕生したのであり、もう甘えはやめなくてはいけない。他人任せも捨てなくてはいけない。自分が犠牲を払って、その上で責任をとることであって、それが人々の賛同を得られ、道が拓かれるのである。

無上の喜びを感じる

鶴田重蔵

私は、今朝早く起きて、自分の存在が社会にプラスになっているか、マイナスになっているか、改めて考えてみた。過去六十八年間あまりプラスになっていないように思えた。それでこれからは、少ない余生ではあるが、プラスの人生を送りたいと改めて決心した。

私がこの夏、スイスのコーの大会へ行ったのも、MRAを通じてプラスの生き方を学ぶためであった。コーでは、カナダのポール・キャンベル、イギリスのダンカン・コックラン、ノルウエイのイエンツ・ウイルヘルムセン、オーストラリヤのスターン・シェパード、さんら、永い間献身的にプラスの生活をしている人達に会い、与えられるところ誠に大であった。その最たるものは、深い暖かい思いやりであった。

ラオス、ベトナム、インド、パプア、オーストラリヤ、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、カナダ等、世界各国から約六〇〇名もの人々が出席していたが、誰に会っても、日本に対する期待は大きい。日本はこれに応える義務があると思う。彼等は、日本にのぞみたいものは、MRA的、道義的精神である、といっていた。

私はこの六月、電々公社及びその関連会社における約五〇年の生活を終り、のんびり余生を暮すことが有意義なことと思っていたが、それは間違いであって、今から二十五年前、アメリカのマキノのMRA世界大会に参加して決意した、あの純潔の精神をいま一度奮いおこして、日本及び世界のために働らく決心をした。

人生の在り方は、与えられた境遇を最も有効に使うことだと思うが、私はいま、私の全力をMRAのために使うことが出来ることを無上の喜びと感謝するものである。

主人と共に歩む

鶴田清子

スイスのコーへ、何の障害もなく行けたことを感謝している。コーでの十日間の訓練は、温かい人々に囲まれての生活であり、短く感じた。特に、私共には孫のような、藤森英和さん、平沢恵子さん、兼松めぐみさん達が、日本の代表として劇「アジアの歌声」の主役で活躍し、責任をとっている姿には、頭の下る思いがした。これに金森夏子さん、中島竹治さん、藤田さんらが加わり、更に強力になった。

ポール・キャンベル夫妻と朝食を共にしたとき、夫妻が結婚した時に、①ウソをいわない、②秘密をもたない、③自分をとりつくろわない、と約束したと話してくれた。その後部屋に帰ったら、美しいバラの花と共に「将来を共に働らくことを願います」のカードがあった。

海に囲まれた日本におり、家庭の主婦は視野が狭く、外国のことなど遠い国のことのように思っていたが、ラオスの外務次官チャン・タラシーさんが、奥さんと子供六人を連れてコーに来ており、そのお話は、「隣のベトナムの影響で明日の運命が危ない、日本に希むことは、物質的援助はいらないから、MRA精神の人々が来て助けてほしい」と、真剣に話されたのが心に焼きついている。

東南アジアの人々の苦しみと、日本に対する期待に応えるために、私も主人と共に働らく決心をした。

青年の役割は何か

大村　治

私は、特に若者について、ふれてみたい。初めてコーに来たという、高校生、大学生、働らく青年が、ミーテングでどんどん発表していた。

あるイギリスの青年は、今迄は自分のことだけを考えて生きてきた、他人のことや社会のことなど考えたことはなかった、これからはもっと視野を広げて世界のことを考えたい、と語り、ドイツの学生は、社会の悪は、すべて政治と政治家が悪いと決めつけていたが、このコーで人々の体験を聞いて、社会悪の根元は自分自身であると気がついた、と語り、スエーデンの女性は、家族との問題でいつもトラブルを起こしていたが、自分自身が変らない限り他の家族の者は変らないと知り、まず自分が正直になり、家族の意見を聞くことを決心した、と

アジアの若者の声

また〝アジアの歌声〟に参加している各国の若者も、その体験を語っていた。

インドのジョセフ・ゾクンガ君は、ビルマとの国境近くのミゾーラムというジャングル地帯の出身であり、ここではインドからの独立運動のゲリラ活動が続いており、殺しあいがよくある。彼も人種文化の全く異なるインド人を憎み、その内に中国に行って軍事訓練を受け、帰ってからゲリラとなって、インド政府と闘う計画をもっていた。彼はMRAに会い、それ迄のインド人に対する憎しみは間違いであり、真の解決策でないと知り、小さな目的から、もっと大きな世界大の目的を発見したとして、〝アジアの歌声〟に参加していた。

また香港のスー・フンチ君は、中学生の時歴史の先生が、日本軍の兵隊に鉄砲で殴られ、アゴがつぶされたこと、抗州の田舎で、天井裏にかくれた母が、日本の兵隊に槍で天井を突き刺して探されたが、九死に一生を得て助かったことなどで、日本人を大変憎んでいた。それが私と一緒にいてもあまり口もきかなかったのであるが、一緒に生活している内に、お互に信頼が生れ、深い親友となった。

またラオスのロータイとランパイという姉妹は、最近のインドシナの情勢が悪化したので家族と共にラオスから来ているが、常に希望をもって、ラオスの平和のため、アジアの平和のため、〝アジアの歌声〟のチームと共に闘っている。

日本の若者は

このような世界各国の若者達のことを考えると、われわれ日本の若者はこれでよいのかということである。

日本の若者は、あまりにも恵まれており、如何にわがままな生活をしているか、反省させられる。日本の若者は、もっともっと精神的にしっかりしなくてはいけない。

この〝アジアの歌声〟には、日本の若者が五人参加しているアジアの若者が、ヨーロッパの若者が共に、世界の問題、人類の問題について考え、一緒に実践活動しているのに、われわれ日本人として、他の国々のために何が出来るか、何を与えることが出来るのか、もっと考える必要があるのではないか、とおもう。

（帰朝報告会の模様）

犠牲を払って責任をとろう

住友　義輝

妻と二人でコーへ行った、コーでは十八年前のマキノのままの日課で行われており、MRAそのものは静かで、謙虚で、暖かでひとまわり大きく、大人に成長したと感じた。

なんといっても、欧州の国々と違って日本は遠いから、と思っていたが、コーに行ってみたら、濠州、パプアニューギニア、南アフリカ、ブラジル、アメリカなど各国から多くの人達が来ており日本より豊かでない国の人達も、みんな犠牲を払って来ていた。

フルタイムの人々も、自分の生活のためには自分で寄附を集める。〝アジアの歌声〟も自分達の旅費は自分達で責任をもっていた。

自分の国は自分で守れ

私たちは、世界の人々が、日本に大きな期待をもっていることを毎日聞かされた。日本はアジアの真の安定勢力になってほしい、道義標準に則った指導力をもった国になってほしい、といわれた。

インドではパンチカニーを含めて六カ所にMRAセンターが出来て、その勢力が中心となって〝アジアの歌声〟が作られ、インド、ラオス、ベトナム、カンボチヤで大きな影響を与え、いま欧州各国を廻っている。

ベトナムがハノイの支配下に統一され、政治力、経済力、軍事力だけでは思想に対抗できないことを世界に示している。これからのアジアの地図はどうなるのか。地図をぬりかえるのに戦争はいらない、ということを今程ハッキリいえるときはない。しかもそれは一晩の内に変る。

コーで共通していることは、自分の国は自分の手で守らねばならない、ということであり、そのために犠牲を払っている。しかも、日本のために、何かすることはないか、といってくれている。

選択のときである

われわれは、日本は何をなすべきか、五年後、十年後を見てナショナルターゲットをどうしても作らねばならない。国の目標がないから、会社も不況になればフラフラするし、一人一人もどこに力をぶつけてよいか解らないでいる。

人に任せるのではなく、みんなが世界の動きを正しく見て、ハッキリ先を見通すこと、そして世界の秩序を守るために、日本も責任をとらなければならない。

しからば何をしたらよいか。いまは、あれも、これもの時代ではない、あれか、これか選択の時である。

何を選ぶか、これは神の声を聞いて、恐れず、それに従えばよい。

ガイダンスが出発点

実は、私はコーに行って、久々に妻と一緒にガイダンスをもち、シエアをした、これがすべての出発点である。これがコーではそう難しくはない。だが日本に帰ってからは、今日は疲れたガイダンスはお休みという日もあったが、続けている。これは続けていく、そうでないと不安で仕方がない。

日本の経済成長は外国でも大きく評価されている。まさに経済大国である。だが同時に、何をやらかすか解らない国、という不安も与えている。経済力が問題解決にならないことは明らかである。

日本でも何かを求めている人が非常に多い、真剣に求めている、私のガイダンスは、あらゆる階層から、日本の国に責任を持つ人を三十名、来年夏のコーの世界大会におくりたい。特に青年三十名を、インドのパンチガニーにおくりたい。〝アジアの歌声〟の勢力に十名の人をおくりたい。と考えている。

私達二人は、お蔭様で今年コーに行くことが出来て、幸いであったと感謝している。皆様にも是非おすすめしたい。

日本はアジアの灯台になろう

住友義子

十五年ぶりのコーは、昔と少しも変らず、むしろ、もっと静かで、平和で、聖霊に満ち溢れていた。私共は、暖かい人々の真心と、その献身に打たれ、日々大きな贈物を、神から与えられているように感じた。

台所で働いていたお嬢さんが、飛び出してきてコーラスを唄ってくれた時には、突然涙が溢れ、私が求めていたものはコーに残っていた、年代の相違もなく、人々が集まり、静かになり、心を開き通しで傷つくこともなく、心を一ツにして同じ目的のために生きていくことができる、欲しかったものが見つけられた感じがした。

コーの夜明けはすばらしい、同じように、この日本にも、長い混迷の後にすばらしい朝が近づいてきている、いまはその道がハッキリと見えてきた。

アジアでは、日本が道義的に立上るのをみんなが待っている、ラオスでは、やっと道を見つけた時には、サイゴンがアッという間に陥落してしまい、立直る時が短かすぎた、と元高官が次のように話してくれた。

知らされないベトナム

「ラオスは、ホーチミンルートが出来て以来、次第に共産化し、パテトラオは夫人も子供も北京に捕えられているので、どうしても彼等のいう通りにならざるをえない。

同じラオスでも、共産側は二十五才までは結婚せず、働らいたお金は同じ所に持ってきて、同じ物を食べ、国の共産化のために必死に働らいている。民主主義側では、非常に優秀な人は沢山いるが、ばらばらなので結集して国を動かす力とはならない。大学生は政府に反対しているが、それは即ち共産側を有利にしていることに気がつかない。

ベトナムは統一されたといっても、サイゴンにいた高官、将軍達は、国外にいたのを、門戸は自由に解放されている、というので帰国すると、集まるようにいわれ、集まると一日目はすぐ家に帰し、二日目は安心して集まると、北との国境近くの不発爆弾を整理するよう強制的に連れて行かれ、家族は生活に困っているが、共産側は何の問題もない、と報道し、世界はそれを信じている」

日本の報道は一般的に片寄っているので、本当の世界の必要も、アジアの必要も、日本の必要も、それから読みとることはできない。アジアの情勢は緊迫している、みんなの叫び声を肌で感じて、日本は一日も早く、融合の思想とハッキリした目標をもって、世界に出てゆかなくてはならない。

コーは普通の人の犠牲で

コーでは、スイスの一般の家庭婦人が、遠くの町々から電車で来て、掃除、料理等を一日奉仕して夕方家に帰っていく、という、大勢の人々の奉仕と犠牲で賄われている。

またMRAの本「黒と白」は、スイスの小学校の教科書として使われている。日本も、そのような国になりたいとおもう。

私は、かつて帰国してから、ハッキリとガイダンスがあったにも関らず、それに従わなかった何年間、私共のことを心から心配してくれていた友人を傷つけ、その信仰をも裏切り、神をも裏切ったことに気づいた。それは子供達も、私を信じてついて来てくれた若い人々をも裏切ったことを、何とも申訳なく思っている。

それでも、私共にコーに行く機会が与えられた、私は二度と神と人を裏切ることのないよう、愛を与へ得るようになりたいと願っている。

どこにいても、いつも皆さんと共に、人を変え、国を変え、世界を変える闘いを、闘ってまいりたいと思っている。

狩野安さんよりの便り

（旧姓加藤）

○

「先日は久しぶりに、なつかしい皆様にお目にかかれ、本当に喜しゅうございました。

また、コーに行ってらっしゃった方々の、決意を伺い、大変心を打たれ、久しぶりに心が満たされた気が致しました。

私にとってMRAは心のふるさとで、忘れようとしても忘れうることはできません。私のこれまでの人生で、MRAで学んだことがどんなに大きなプラスになっているか、心の支えになっているか、はかり知れません。」

（以下略）

今後の行動で示していく

河本康太郎

この度、はからずも、歴史と伝統のあるMRAの世界大会に、日本代表団の一員として出席することができ、身に余る光栄と感激すると共に、将来への決意を一層新らたにした。

私は、過去十三年の間、東芝の照明事業部で、照明の技術開発、応用研究の業務に従事していた。その間、国際協力事業の一環として、東南アジアの合弁会社の設立時に、先方技術者の技術指導を行なったことがある、その当時は、その仕事の重要性を十分認識していたので、一生懸命技術指導を行い、注意すべき三点を教えた。

それにもかかわらず、合弁会社の生産開始後に、注意したことを守らないでトラブルを発生し、失敗した。なんとお粗末であろう、と思いながら、その対策、処理に苦慮した記憶がある。

今回MRA世界大会に出席し、今迄の生活を反省して、改める点の多いのに気がついた、お粗末なのは私の方だと気がついた。それを教えてくれたのは、エジプトの学生であった。

世界大会に参加している人々が、人間なら当然もつべきである道義を基盤としたものの考え方に、非常に感銘した。そして、かつて私が東南アジアの人々と話をした時に「まず技術を」「まず知識を」の考え方が間違っていた、と反省している。

「技術指導」の前に人間同志の心のふれあいに心がけることであって、心のつながりができれば、一ツを話せば十のことを知る。このことが海外に合弁会社をつくる時に、非常に大切であることを今回のコーのMRA大会に出席して痛感した。

世界大会出席して重要な意義の一ツは、〝その成果を今後の行動に活かす〟ことであると考えている。さきにのべたことは、私の体験のほんの一例にすぎない。私も、今回の世界大会で得たものを、私の職場で、社会で生かすことに力を注ぎたい。それがMRAの勢力拡大に通じると確信している。

そして、諸先輩が築かれた、すばらしい歴史と業績を、継承し、人格形成のため、MRAの道義標準に照して生きることを決意した。

コーの大会に参加して

榊　たか子

私は、昭和三十二年、アメリカのマキノに行き、MRAを知った。

今回は埼玉県議五名で海外出張に行くことになったので、その日程にコーを二泊三日入れた。

日本は資源はないが、物質的には恵まれていると思ったが、とんでもないことで、信仰がないので不幸だと感じた。

県議五名でオスロのMRAハウスを訪ね、ノルウエーのMRAの人々と会った、イエンツ夫人は、わざわざ日本の御飯を炊いてくれ、日本式食事を作ってくれたので、誰もがすっかり感激してしまい、自然の内にMRAのことを体験させられた。

スイスのコーに着いたら、〝アジアの歌声〟の人々が、日本の歌を唄って迎えてくれたので、再び感激した、本当にすばらしい歌だった。

コーに来て本当によかったと思った。国会議員の集会にも参加できてよかった、が、私は恥しいと思った。日本はアジアの灯台だ、といわれているが、コーやマキノの大会に参加した国会議員が沢山いるのに、この集会に一人も参加していない、私は謝ってしまった。

コーのマウンテンハウスは人件費と修理費で二億円かかると聞いた、これをすべて浄財で賄っていると聞いて胸がつまった。

世界の人々は、日本から来てくれてよかったと、いってくれた。だが、日本はどういう責任をとったらよいのか、なんとかしなくては、と思って帰って来た。

平沢恵子さん、藤森英和さんらが、献身的に活動しており、三十九度の発熱をしても頑張っている。このように日本の若い人が、日本のために献身していると感じた。そして、この若い人々が、日本はもっとアジアに責任をとってくれ、と訴えていた。

この危機に対し MRA勢力は責任とれ

鄭（チュン） 瘖（ジュン） 先生

今回、国際MRA日本協会の招きで日本に来て、尊敬する皆様にお会いでき、講演することになったことを感謝する。

私は、二十七年前の韓国憲法記念日にMRAを知り、感慨無量である。去る七月十七日朝食会のため静かな時間をもったら、MRAは罪から解放するものである、と知った。現在の世界人類は罪の奴隷になっている。罪という文字は四ツの非らずとかく。非正直、非純潔、非無私、非愛、即ち罪である。

道徳的信念と勇気と努力を、アジア的、世界的規模に広めることである。そして新しい人、新しい家、新しい国、新しい世界をめざすのがMRAである。私自身罪から解放されないで涙を流したこともある。現在必要なのは道徳的に武装した政治家、経済家、科学者、芸術人、宗教人、教育者、経営者である。

今から十年前、アメリカのマキノでのMRA世界大会に参加して、韓国のMRAが一番弱い状態にあると知った。悲しかった。その時、日本やアメリカは金があるから成功するのだ、韓国は金がないから難しいのだ、と考えていた。

神はどこにもいる

しかし、私は帰える途中、太平洋上空を飛ぶ飛行機の中で静かな時間をもった。そしたら「神はどこにもいる、日本にも、韓国にも世界どこの国にもいる、問題は国力とか金には関係ない、MRAをやる勇気と信念があるか、ないかである。その勇気があれば神は助けてくれる、われわれが献身的に働けば神は助けてくれる」、と信じた。

一九六五年、韓国で世界大会を開くことになったとき、勇気が出ないで心配していたら、相馬雪香さんが「MRAの計画は正しいものである以上、勇気をもって進めれば必らず成功する」と言われ、実行したら世界大会は成功した。

私は、やればできるという確信をもって推進し、いまでは四十八の大学に大学生MRAチームができており、四百の中高校にMRAチームが生れている、それでも韓国のMRA勢力と社会悪の力を比較すると、MRAの勢力はまだ弱い。

私は、いつも日本のMRAの活躍に対し考え、祈っている。MRA運動は一ツの国だけでは世界悪に対して弱い、韓国のMRAと日本のMRAが、国家的規模、アジア的規模、世界大にならなければならない。そして悪と闘わなければならない。国際悪、政治悪、経済悪、社会悪と闘わなければならない。

いま、人類文明は重大な危機に直面している、現在の危機に責任をとらなくてはならない。日韓両国のMRA勢力は無力であった。日韓両国の国交正常化をしてから、多くの人々が往来している、その中には、悪をもって往来する人も多くなった。

今回京城の金浦飛行場を出発する時税関の人に「MRAとは何ですか会社ですか」と聞かれた、羽田に着いた時にも「MRAとは何ですか」と聞かれた、私は日韓両国共にMRAが社会的にいかに弱いかを痛感した。

人間は変ることができる

われわれは正しい答を与えなくてはならない、献身的な指導者が現れなくてはいけない、韓国では、各地にMRAチームができており、訓練の集会を開いて指導者を養成している。学生を指導している。日本の皆さんは、日本を愛するに違いない、韓国も同じだ、自分の国を愛さないものはない。だが、本当に自分の国を愛するものは、他の国も愛する大きな心をもったものでなければ、真の愛国者ではない。いま、世界中に爆破事件、暗殺と不祥事が次から次へおきている、この不安は科学の力でも、法律の力をもっても、警察でも解決できない、人間性の根本問題だ。

ブックマン博士のいった教えに導かれなくてはいけない。

人間は変ることができる

これが解答の根本だ

国家経済も変ることができる

これが解答の結果だ

世界歴史も変ることができる

これがわれわれの世代の使命だ

MRAは平和を創造する。MRAは自由を創造する。MRAは安定を創造する。MRAは幸福を創造する。われわれは、MRAに積極的に参加して、自己の改造、家庭の改造、国家改造、世界改造を成功するよう献身し、新しい世界建設のため、一諸に決意を固めたい。